

CSR報告書 2012

貴金属を扱う私たちの技術は
地球のために
社会のために
貢献しています



表紙について

オオルリシジミ^{つぶや}の眩き

皆さん、私は、長野県安曇野市に住んでいる、シジミチョウの仲間の「オオルリシジミ」といいます。「大きな瑠璃色をしたシジミチョウ」が名前の由来で、かつて、仲間は、本州各地と九州に数多く住んでいました。しかし、年々その数が減り、今では、この瑠璃色の姿を確認できるのは、ここ安曇野を含め長野県の3地区と、遠く離れた熊本県の阿蘇地方だけとなってしまいました。その他の地では生存が確認されず、とても寂しく悲しい状態となってしまいました。

私たちは、マメ科のクララの蕾や花の蜜しか食べることができません。そのクララは、人が維持管理している採草地・農地・牧草地・放牧地そして河川堤防等に数多く生息していました。ところが近頃、いろいろな開発等で生息地が失われているほか、野焼きの中止・草地の管理放棄・薬剤散布等によって急速に生息地が変化し、クララが消失し、その結果、食べるものが無くなってしまいました。

また、あまりにも美し過ぎて、コレクションとして採取する人達も増え、絶滅に拍車がかかり、今では、環境省絶滅危惧種Ⅰに選定され、幻の蝶になりつつあります。

現在は、各地の保護団体の皆さんのおかげで保護され、細々と生息していますが、厳しい状態に変わりはありません。……どうか皆様、私たちを見かけたら、遠くから、優しく見守ってくださいね。お願いします。

写真提供：井上 良二

44Ru ルテチウム 101.1	45Rh ロジウム 102.9	46Pd パラジウム 106.4	47Ag 銀 107.9
76Os オスミウム 190.2	77Ir イリジウム 192.2	78Pt 白金 195.1	79Au 金 197.0



FSC®認定製品は、責任ある森林管理のために、高い環境基準と社会基準に従っています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



環境に優しい植物油インキを使用



編集方針

TANAKA グループCSR報告書は、ゆとりある豊かな社会の実現に向けたTANAKA グループのCSR(企業の社会的責任)の取り組みをステークホルダーの皆様へ報告し、コミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。皆様のお声をTANAKA グループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。

対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日
但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

対象範囲

TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。(海外拠点を除く)
なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

発行時期

2012年8月

発行責任部署

TANAKAホールディングス株式会社
経営企画・広報本部 CSR推進部
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3
東京ビルディング22階
TEL 03-6311-5506(直)
FAX 03-6311-5508
ホームページ <http://www.tanaka.co.jp/>

参考としたガイドライン

(財)日本規格協会「ISO26000:2010」
環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」

目次

	企業理念・行動指針	1
	トップメッセージ	2
	TANAKAグループの事業所と事業内容	4
	組織統治	
	CSRマネジメント	6
	コーポレート・ガバナンスと内部統制システム	7
	人権・労働慣行	
	安全衛生への取り組み	8
	雇用・人材育成	11
	環境	
	環境コンプライアンス	12
	環境インパクト(INPUT・OUTPUT)・環境経営指標	13
	環境会計	14
	環境負荷低減への取り組み	15
	公正な事業慣行	
	コンプライアンス	17
	BCPの取り組み	18
	消費者課題	
	お客様への対応	19
	コミュニティへの参画	
	社会貢献	20
	安全・衛生・環境推進体制	
	安全・衛生・環境管理活動の組織	24
	第三者所感	25

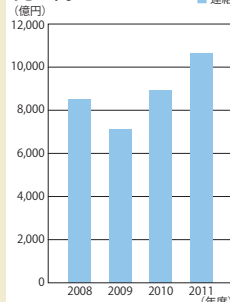
業績要約

TANAKA グループ業績

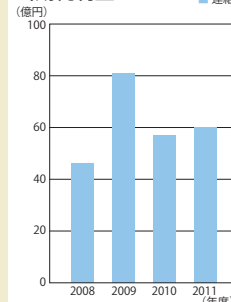
単位：百万円

	2010 年度	2011 年度	前年度比
売上高	891,043	1,064,081	119.4%
税引前利益	10,889	12,696	116.6%
当期純利益	5,709	6,046	105.9%
総資産	309,220	291,608	94.3%
自己資本比率	52.4%	51.5%	—

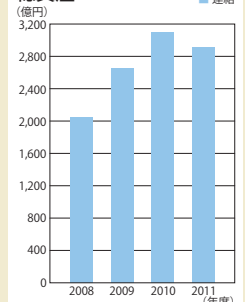
売上高



当期純利益



総資産





企業理念

TANAKA グループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待に、スピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。

行動指針

TANAKA 人 5カ条

私たちは、お客様から選ばれ続けるため、常に感動を創出し、
謙虚に学ぶことを忘れず、日々、5カ条を実行します。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1.あいさつ Greetings | 心を込めた挨拶で、信頼の絆を結びます。 |
| 1.えがお Smile | 明るくのびのびと、笑顔で輝き続けます。 |
| 1.かんしゃ Thanks | 感謝の心で、ゆたかな人間力を育みます。 |
| 1.あんぜん Safety | 安全を最優先し、最高の仕事をします。 |
| 1.ちょうせん Challenge | 柔軟な発想で挑戦し、夢を実現します。 |



トップメッセージ

新たな『企業理念』及び『行動指針』を制定しました。

TANAKA グループ従業員の意識が変革されることを期待しています。

さらに日本が世界の中で最も輝いている国となることに少しでも貢献できるよう

今後も全力を挙げて活動してまいります。

2011年は、震災や洪水など国内外において自然災害が多く発生し、それらへの対応を通じて企業の果たす責任の大きさを認識した一年でした。つい最近もつくば市を襲った竜巻は弊社工場の約100m先をかすめました。改めて自然の驚異を感じ全事業所に対して日常の防災対策の再点検を指示しました。

東日本大震災の後、TANAKA グループは、関東と関西が同時に罹災することはないとの歴史的判断に基づき、万一の災害に対応するためのプロジェクトを立ち上げ、本年4月より「TANAKA ホールディングス大阪本社」を設立しました。本社機能がストップすることのないよう人員と環境を東西二拠点に整備し、人員も交替制で配置することにしました。またこれに合わせて、今後コンピュータシステムがダウンすることがないように本社以外にもシステム拠点を設けバックアップ体制を確立いたしました。

当グループを取り巻く経済環境は、特に昨年度後半から厳しい状況となり、半導体を中心とした各お客様の業績不振の影響から当グループの主力工業製品についても急激な受注減少の中、2011年度決算を迎えることとなりました。

このような状況の中、当グループでは2009年に「フェニックス5計画」(中期5ヶ年計画)を策定し、2011年度は、その『2ndステージ3ヶ年計画』のスタートの年でした。しかしながら、大震災後の経済の停滞による影響を鑑み、この計画を再度見直し、BCP(事業継続計画)をより意識した活動を行ってまいりました。

2011年度、当グループにおけるCSR活動において、ひとつの新たな仕組みを構築しました。

従来の「安全」と「衛生」の組織に新しく「環境」を含めた統合的中央組織を構築したことです。あわせて環境/安全/衛生業務を個人のミッションから事業場単位

に切り替えるため各事業場に「SHE(Safety、Health、Environment)推進室」を設置しました。これにより環境/安全/衛生の各専門部会の目的が明確になり今後の活動の充実が期待されます。

また当グループとして、新しいプロジェクトをいくつか立ち上げ活動してまいりました。

- ① 人事制度の再構築を行うためのプロジェクト
- ② 会社内コミュニケーション活性化のプロジェクト
- ③ 経営改革のための課題を検討するためのプロジェクト
- ④ 本社間接部門ISO取得プロジェクト
- ⑤ 中期経営計画の戦略策定実行者育成のためのプロジェクト

などですが、これらの活動の中で新たに「企業風土改革・企業文化創出委員会」が発足し、TANAKAホールディングスとしての新『企業理念』及び『行動指針』が決定されました。企業風土の変革を図り、組織を活性化することを目的とした内容となっています。

なお企業理念を策定するにあたり、当グループ全体の呼称を「田中貴金属グループ」から「TANAKAグループ」に変更しました。当グループは、4〜5ページにありますとおり持株会社である「TANAKAホールディングス株式会社」を筆頭として国内外の全てのグループ会社を指します。「TANAKA」という英語表記は、私たちの活動が日本にとどまらず、世界を視野に入れて展開していくという決意が表現されています。

かつて私は、外部の厳しい環境を知らずに自分の会社の殻に閉じこもっている状況を「ゆで蛙」という表現で社員に警告しました。しかし、ゆで蛙状況から慌てて飛び出すと火に炙られ今度は「焼き蛙」になってしまいます。今回の新しい『企業理念』と『行動指針』は、「夢創造」をコンセプトに作成しました。社員に「夢」を持ってもら

いそれを如何に実現するかを考えてもらいたいと思います。

最後に今年特に注力していく活動としては次の5項目です。

1. まず「技術開発」の強化です。日本の人口減少とは逆に21世紀は世界の人口は増加傾向にあります。資源、エネルギー、食料、水などが不足し、地球環境は汚染され、これらの影響により気象状況が変わり自然災害が多発します。また発展途上国では貧富の差が広がり暴動やテロ、宗教対立が発生します。これらの困難を少しでも解決する方法は人類の知恵を結集した「技術開発」です。貴金属は、あらゆる分野でまだまだこれから社会に貢献できる素材であると信じております。今後当社が益々社会に貢献し発展できるよう今期は特に注力してまいります。
2. 二つ目は昨年、田中貴金属工業株式会社が株式会社フルヤ金属殿に出資し資本関係が形成されましたが、今年は、技術・営業面においてもトップのみならず現場の人間同士の交流活動を進めていく第二ステージとして、アライアンス強化に努めてゆきたいと考えます。
3. 三つ目は「e-チャレンジ活動のさらなる強化」です。昨年から開始した「e-チャレンジ活動Ⅲ」をさらに発展させ、業務改善・改革活動の充実強化を図ります。
4. 四つ目は「安全活動の推進」です。交通事故は、残念ながら昨年むしろ増加傾向にあります。今年も地道に活動し安全操業、交通事故撲滅を図っていきたいと考えます。
5. 最後は、以前よりは減少していますが、早急に取組まなければならない問題としてメンタルヘルス対策があります。原因の一つとしてくいじめ・パワハラ・セクハラ>があるとされていますので、会社としても

これらを絶対にしない、させない、していることが判った場合は止めさせる、ということを強い意志をもって活動いたします。

最近、私は仕事で世界の色々な国を訪ねる機会がありますが、日本ほど自然の豊かさ、芸術文化の豊かさ、衣食住の豊かさに恵まれた国はないと感じています。また世界に例を見ないほどの「安全・安心・安定」を確保できている国といえます。(註:OECD調査で日本は「安全」で世界一位)

当グループとしても、日本が世界の中で最も輝いている国となることに少しでも貢献できるよう全力を挙げて活動してまいります。

今年も私たちが昨年度に実行した取組みを本報告書にてご紹介することができました。是非ご一読いただき、貴重なご意見を賜れば幸いに存じます。

TANAKAホールディングス株式会社 社長

岡本英爾





TANAKAグループの事業所と事業内容

TANAKAホールディングス株式会社 THD

田中貴金属グループを統括する持株会社

本社：①東京 丸の内

大阪本社：②大阪



田中貴金属工業株式会社 TKK

各種貴金属工業製品及び
貴金属地金の製造・研究開発

本社：①東京 丸の内

流通センター：⑫湘南管理センター



② 岩手工場

・クラッド材 ほか



③ 鶴岡工場

・プリント配線板 ほか



④ 富岡工場

・線材、板材
・貴金属パイプ加工
・金、銀ターゲット
・リベット型複合接点
・銀ろう ほか



⑤ 市川工場

・白金族系貴金属回収・精製
・白金族系貴金属化合物
・各種触媒の製造 ほか



⑥ 袖ヶ浦工場

・白金族系貴金属回収・精製



⑦ 伊勢原工場

・白金系素材加工
・ガラス溶解用白金装置
・各種センサ用材料
・白金系ターゲット ほか



⑧ 平塚工場

・クロスバー型電気接点
・電子部品用材料
・融着加工品 ほか



⑨ 湘南工場

・金銀系回収・精製
・金銀系化合物
・各種めっき加工
・不溶性電極
・厚膜ペースト



⑩ 筑波事業所(テクニカルセンター)

・化学系技術開発
・白金系ターゲットの製造

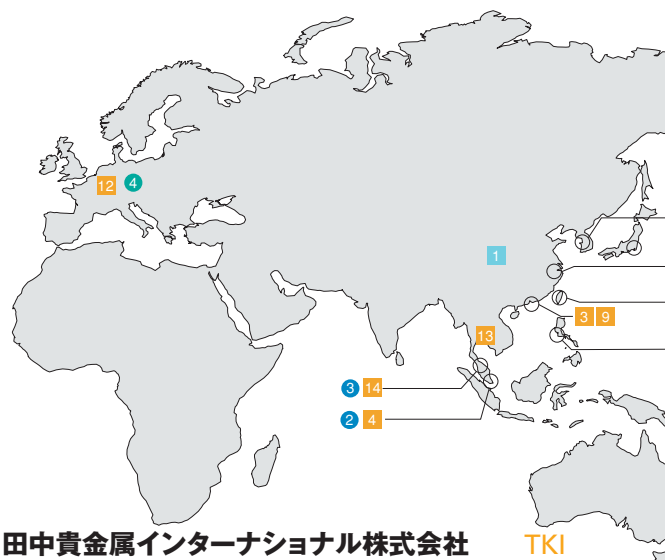


⑪ 平塚テクニカルセンター

・有機・無機化学、触媒等の研究・分析
・材料試験 ほか



Group Network



田中貴金属インターナショナル株式会社 TKI

田中貴金属グループ製品の輸出入販売

本社：①東京 丸の内

海外拠点：②ソウル支店

③香港支店

④シンガポール支店

⑤台北支店

⑥高雄営業所

⑦マニラ駐在員事務所

⑧田中貴金属(上海)有限公司

⑨深圳分公司

⑩田中貴金属インターナショナル(アメリカ)

⑪サンノゼ支店

⑫田中貴金属インターナショナル(欧州)(ドイツ)

⑬田中貴金属インターナショナル(タイランド)

⑭田中貴金属インターナショナル(マレーシア)



田中貴金属販売株式会社 TKH

田中貴金属グループ製品の国内販売

東京本社：①東京 丸の内

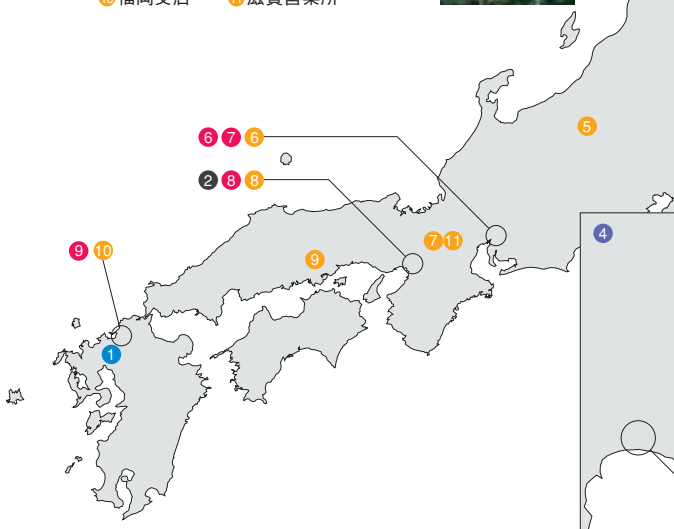
営業所：②仙台支店 ③水戸支店

④横浜支店 ⑤長野支店

⑥名古屋支店 ⑦京都支店

⑧大阪支店 ⑨岡山支店

⑩福岡支店 ⑪滋賀営業所



TANAKAグループでは貴金属を使った製品を、日本を始めとする各国に供給しています。これらTANAKAグループの製品は自動車、電気製品、携帯電話等様々な商品に使用されており、身近な所でお客様の生活を支えています。



田中先端技術材料(蘇州)有限公司

白金装置の製造
本社: 蘇州



TKS

台湾田中貴金属工業股份有限公司

各種電気接点、線材加工、回収・精製
本社: 台湾 台北市
工場: 新竹工場
湖口工場



T-TKK

田中貴金属ジュエリー株式会社

ゴールド・プラチナジュエリー、インポートジュエリー、ブライダルジュエリー、工芸品、地金・コイン、リフォーム、各種記念品の販売

店舗: GINZATANAKA

- ① 銀座本店
- ② 新宿店
- ③ フォーシーズンズホテル椿山荘東京店
- ④ 横浜元町店
- ⑤ 仙台店
- ⑥ 名古屋店
- ⑦ 栄店(ブライダル専門店)
- ⑧ 心斎橋店
- ⑨ 福岡天神店



TKJ

田中貴金属ビジネスサービス株式会社

田中貴金属グループの間接業務の受託及び管理
本社: 東京 丸の内



TKBS

田中電子工業株式会社

TD

各種ボンディングワイヤの製造

事業所: ① 佐賀本社
⑤ 湘南分室
⑥ 台湾テクニカルセンター



田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd. TES

各種ボンディングワイヤの製造
本社工場: ② シンガポール



田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd. TEM

各種ボンディングワイヤの製造
本社工場: ③ ペナン



田中電子(杭州)有限公司

TEC

各種ボンディングワイヤの製造
本社工場: ④ 杭州(中国)



台湾田中電子股份有限公司

TET

本社工場: ⑦ 桃園

日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ(株) EEJA

貴金属めっき液をはじめとする各種表面処理剤やめっき装置、検査装置等の製造販売及び研究開発

事業所: ① 平塚事業所
② カリフォルニア
③ 台湾ラボラトリー
④ 韓国ラボラトリー



ティーシーキャタリスト株式会社

TCC

ガソリン及びディーゼルエンジンの排ガス浄化用触媒開発・製造・販売

本社: ① 東京
研究所: ② 田中貴金属工業(株) 筑波事業所内



株式会社日本ピージーエム

PGM

使用済みの自動車排ガス浄化用触媒・石油化学系触媒などからの貴金属回収

本社: ① 東京
工場: ② 小坂工場
③ ニュージャージー(アメリカ)
④ リベレット(チェコ)



喜星金属株式会社

HEESUNG

各種貴金属製品

本社工場: ① 韓国 仁川廣域市
事務所: ② ソウル
工場: ③ 南洞
④ 佳佐



成都光明田中環保技術有限公司

CGTEC

ガソリン及びディーゼルエンジンの排ガス浄化触媒開発、製造・販売
本社工場: ⑤ 成都(中国)



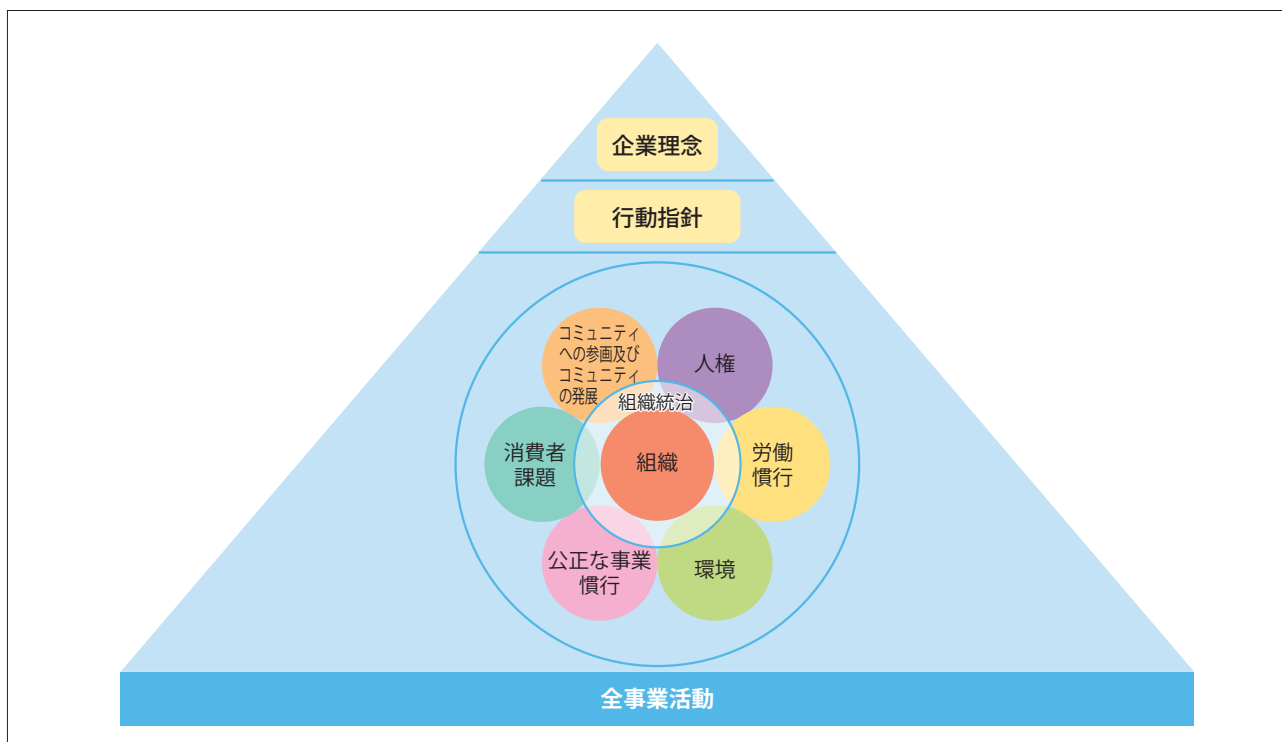


TANAKAグループは、「貴金属を究める」専門企業としての誇りと「ゆるぎない信用と信頼」を基盤として、健全な企業活動を推進し、更に地域社会の一員としての社会的責任を果たすことにつとめ、貴金属がもたらすゆとり有る豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献することにより、日本のみならず「世界の“TANAKA”」としての地位確立を目指します。

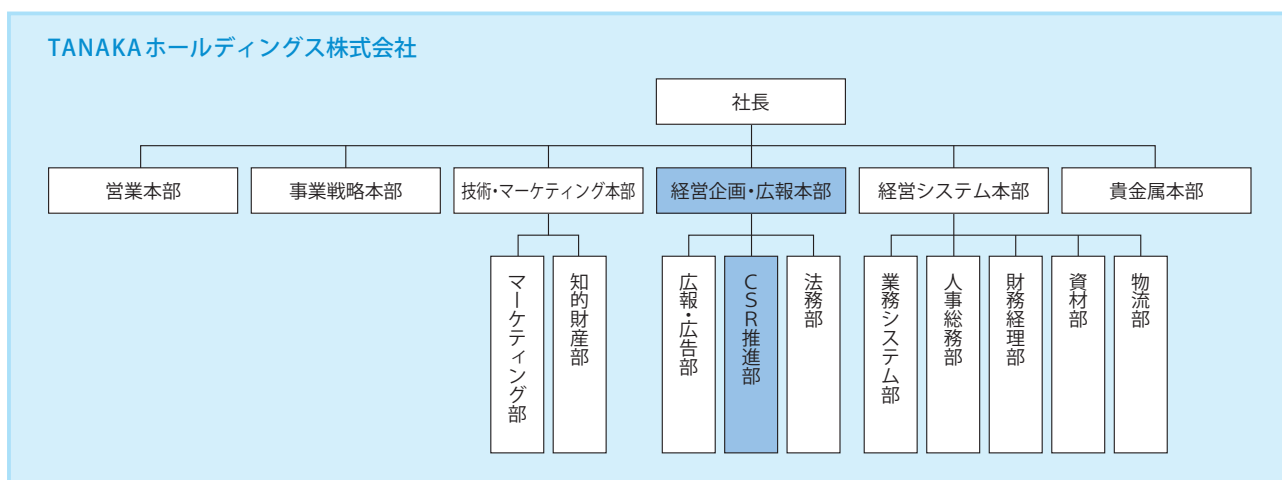
CSR活動は、これらを達成するために取組まなければならない最重要課題のひとつとしてとらえ、これからも積極的に推進してまいります。

CSRの取組み

2011年度後半より、社会的責任に関する国際規格「ISO26000」の中核主題をベースに、新たなCSR活動をスタートしました。



CSR推進体制図

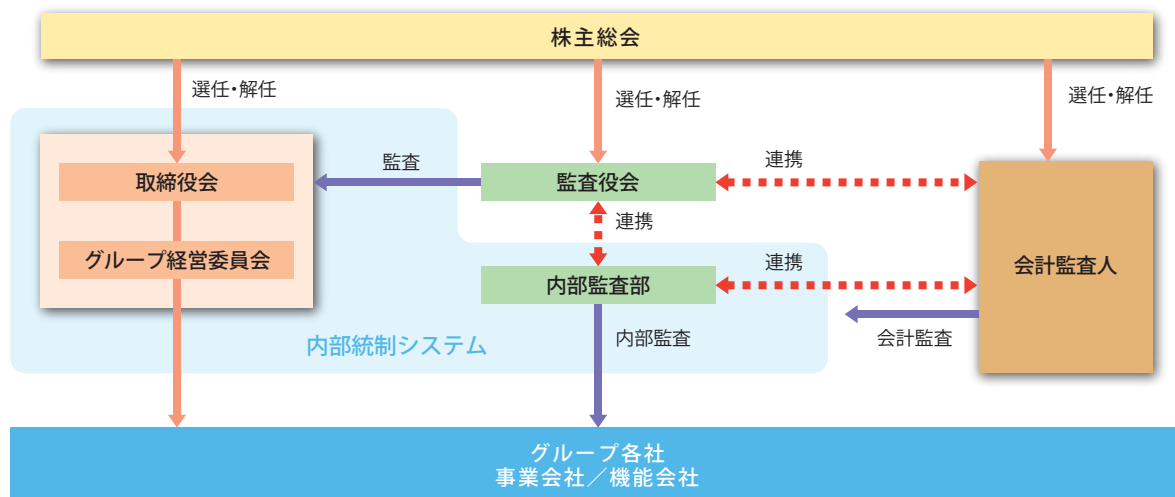




TANAKAグループは、効率的で競争力のある経営を実現するために「最適な経営体制の構築」と「適正な企業運営」を行うと共に、これを実行するための「経営・監視のしくみ」を充実させ、健全性・透明性の高い経営に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制と内部統制システム

コーポレート・ガバナンス原則に定める体制下において、TANAKAグループの目指す経営目的の達成のために構築されたのが内部統制システムです。取締役会、経営委員会、そして内部監査部がそれぞれの役割を確実に実行する仕組みとなっています。



内部監査部の取組み

内部監査部は、TANAKAグループ各社の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、合法性と合理性の観点から公正かつ独立の立場で業務を遂行する組織体制をとっています。

リスクマネジメント等の観点より年間監査計画を策定し、これに基づいて、TANAKAグループ各社の業務活動が適正かつ効率的に行われているかを監査し、社内組織に助言や勧告を行っています。その監査結果は、定期的に実施している社長とのミーティングで報告及び施策の提言を行います。加えて年2回監査役との意見交換を行い、監査役会との相互連携を確保しています。

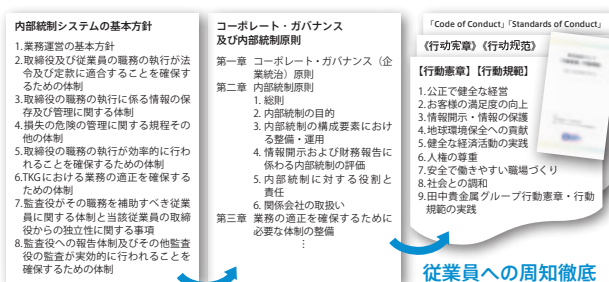
2011年度は、購買管理、品質管理体制、顧客情報管理等のテーマや、輸出入法令順守のテーマのもと、該非判定やバーゼル条約等の法令や規則の順守状況に関する内部監査を実施しました。

また加えて、年間監査計画における監査テーマとは別に、放射線測定関連の内部監査を実施しました。

行動憲章・行動規範

お客様・従業員・株主をはじめとする全てのステークホルダーの権利と利益を尊重し、適法かつ妥当な業務執行、適正かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、「コーポレート・ガバナンス及び内部統制原則」を定めています。

さらに、この目的を達成するために従業員一人ひとりが日常業務で守らなければならないことを具体的に定めた「行動憲章」「行動規範」を作成し全従業員に配布し周知しています。



安全衛生への取り組み

安全に関する最高方針「安全衛生の確保は全てに優先」にもとづき、活動しています。

2010年下期より開始した不安全撲滅プロジェクトの活動を継続し、また、「安全意識のステージ」の考え方を取り入れ、安全風土・意識を改革し安全文化の確立を目指した活動を行っています。

活動方針

安全に関する最高方針

安全、衛生、環境の確保・災害の防止は全ての業務に優先する。

地域社会の安全、環境の確保と従業員の安全、健康の維持、増進を全ての業務に優先して行う。

全ての従業員は、機械設備、環境設備を完全にして安全衛生、環境に反する事項は自ら厳格であると共に、たえず不安全行動、不安全状態を発見し、これを速やかに是正して労働災害、公害、健康障害の絶滅を期さなければならない。

2011年度安全衛生活動方針と目標

方針

TANAKAグループ全社で安全衛生を最優先と位置付け事故・災害・不安全(状態・行動)撲滅への取り組みとする。

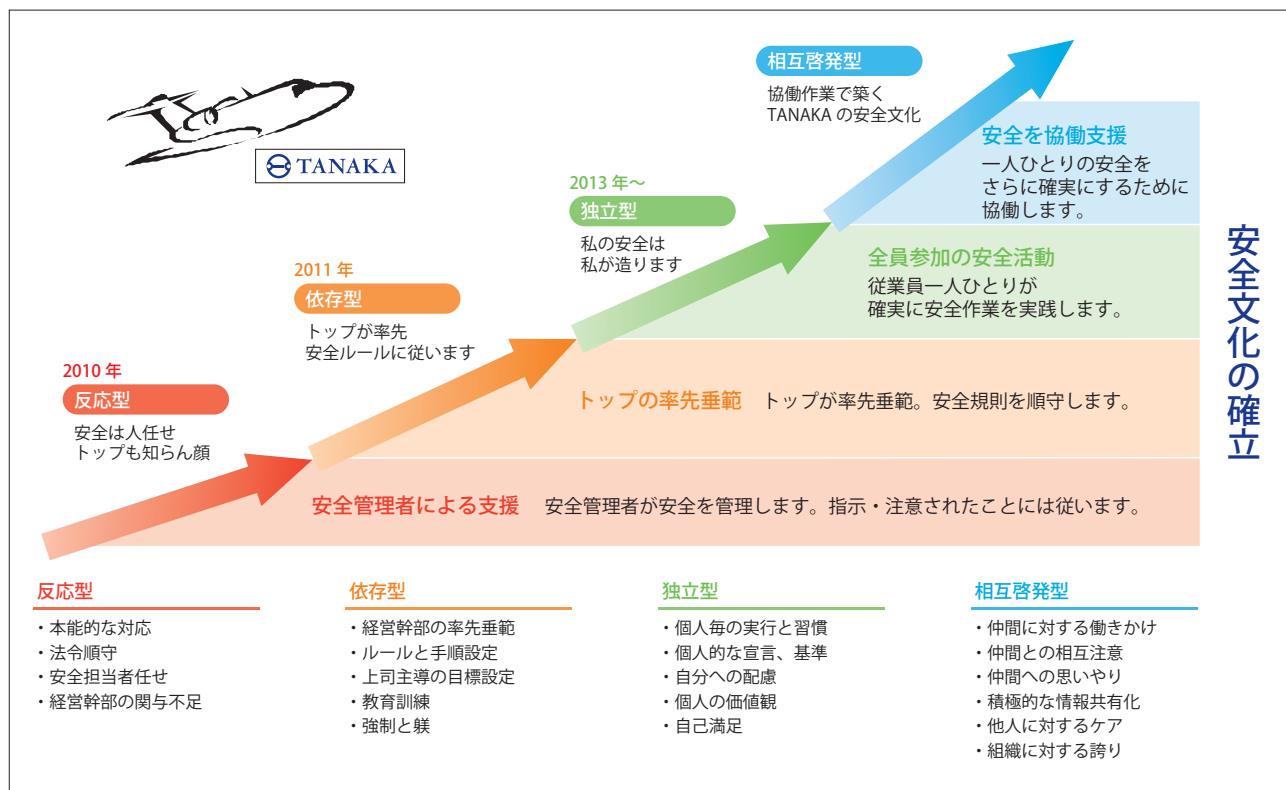
目標

事故・災害及び交通事故の前年比半減

安全意識のステージ「反応型」から「依存型」へ移行

「安全意識のステージ」の考え方に従い、個人の安全に対する意識を変化させ、社内の安全風土・意識を改革し、安全文化の醸成・確立そして災害・事故の撲滅を目指します。

従来からの中央主導、安全管理者任せの活動―「反応型」から、2011年は「依存型」へ移行し、トップの率先垂範、事業場主体の活動へと着実にステップアップしています。





2011年度の主な安全衛生活動

- 事業場主体の安全活動(上期)
各事業場の重点活動課題に基づき活動
- 事業場巡回巡視(10月～)
安全専任(管理者)＋管理監督者(CM&M)による他事業場の巡視(思)
良い所を見つけて、自事業場へ展開
- 工場長のトップ研修受講
セミナー受講～工場長クラス
- DVD視聴(9月～12月)
全従業員を対象に交通事故撲滅の意識向上を図る
- 交通安全標語の募集(2011年11月安全月間)
事業場毎にPt/Au/Ag賞を選定し、賞金を授与
優秀作品4点をポスター化(2012年5月配布)
- 安全専門部会と分科会
安全管理者及び中央スタッフによる合宿を実施、中央方針を立案(2011年12月)
中央安全委員会から安全専門部会へ会議体を変更し、重要案件を抽出し、分科会テーマとして活動開始。(2012年1月～)
- 工場長による場内立哨
工場長による場内立哨を実施。
巡視による不安全状態指摘から定点立哨による不安全行動指摘に主眼を置いて実施。

安全衛生活動年間スケジュール

TANAKAグループ独自に実施する安全衛生活動と全国的に展開されている活動をスケジュール一覧に示しています。

西暦 / 月	2011 年												2012 年		
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
全国主要行事	春の全国火災予防週間				秋の全国火災予防週間				秋の全国火災予防週間				春の全国火災予防週間		
・ 火災予防週間	春の全国交通安全週間				秋の全国交通安全週間				秋の全国交通安全週間				春の全国交通安全週間		
・ 交通安全週間					全国安全週間				労働衛生週間						
・ 安全週間 / 衛生週間					電気使用安全月間				電気使用安全月間						
・ 電気使用安全月間															
強化テーマ	安全管理活動総括												安全管理活動総括		
・ 安全管理活動総括	年度方針説明と展開														
・ 方針説明 / 展開	交通事故撲滅月間												交通事故撲滅月間		
・ 交通事故撲滅月間	TKG 安全月間												TKG 安全月間		
・ 安全強化月間	異常処置安全強化月間												異常処置安全強化月間		
・ 労働衛生週間	電気使用安全月間												電気使用安全月間		
・ 異常処置安全強化	労働衛生月間												労働衛生月間		
・ 防災対策 / 訓練	防災対策と訓練												防災対策と訓練		
・ 無災害月間	年末年始無災害月間												年末年始無災害月間		
事業場活動	事業場長の宣言を受け、各事業場で活動内容を設定し実践する														

交通安全ポスター

交通安全標語をオリジナルデザインでポスター化し、社内に配布・掲示しています。





災害の未然防止／先取り安全のためにラインを通じてのアセスメント活動を中心におき、危険有害性要因を除去するための活動を行なっています。また、交通事故防止活動は典型的な独立型安全意識の育成と考え、安全活動の一環として実施しています。分科会活動では、安全管理者を中心とした活動の中で、安全教育体系、安全設計推進等の検討を行っています。

各事業所での安全衛生改善活動

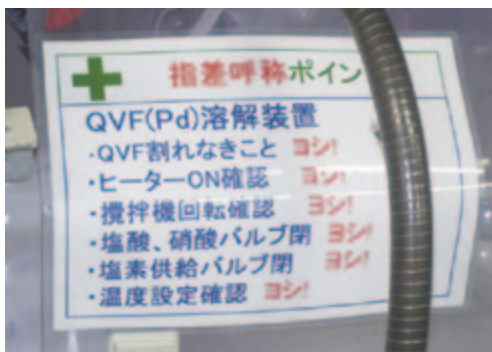
保護具着用標準の写真による表示
(台湾田中貴金属工業有限公司 新竹工場)



現場写真によるKYT
(田中貴金属工業(株) 鶴岡工場)



指差呼称ポイントの現場表示
(田中貴金属工業(株) 市川工場)



交通安全活動としての朝の交通立哨
(田中貴金属工業(株) 筑波事業所)



安全分科会活動

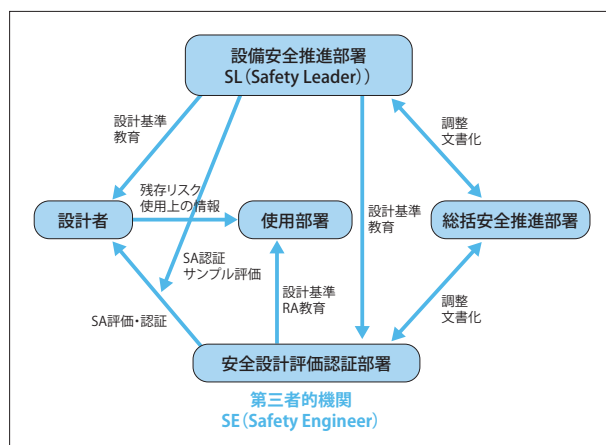
安全専門部会では重要課題を分科会の課題として取り上げて活動しています。

分科会には次の3つがあります。

- 安全設計分科会⇒安全設計推進体系の立案
- 教育分科会⇒TANAKA グループ安全教育体系の立案
- 規定類見直し分科会⇒現行規定類の取捨選択と管理方法の立案

なかでも、安全設計分科会が取り組む「安全設計」は従来から行っている「起こってしまった災害の要因分析と対策」といった事後対応的な活動から、事が起こる前に対策を実施することで未然に災害を防ぐ「事前(コトマエ)主義」を実践するための活動を目指しています。このことはTANAKAグループ全体の安全風土・意識を改革することに繋がる抜本的な活動となると考えています。

安全設計推進体制のモデル





「貴金属 is 未来」に込められた考えの下、新卒採用活動に注力するのはもちろんのこと、障がいのある方の採用も行っています。また、女性にとっての優しい職場を目指し、外国籍の方にも能力に応じた採用を行っています。世界中に繰り広げられる企業競争を勝ち抜き、世界のTANAKAを目指すには、このような多種・多様な人財が総力を挙げて活躍することが必須であると考えています。

「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」をモットーに経営の基本10項目の1つに教育を掲げています。多様な人財が個々の能力を最大限に発揮して組織に貢献する一方、そこに働く一人ひとりの満足度は高く、かつ、生き生きと活性化された職場を創造するための高い意識を維持していくことが教育の最終目的であると考えています。

人は企業の財産であるとの考えから「人材」を「人財」としています。

雇用状況

TANAKAグループ社員情報

社員数	3,731人
国内社員数	2,987人
海外社員数	744人
平均年齢	36.3歳
男子平均年齢	37.1歳
女子平均年齢	30.5歳

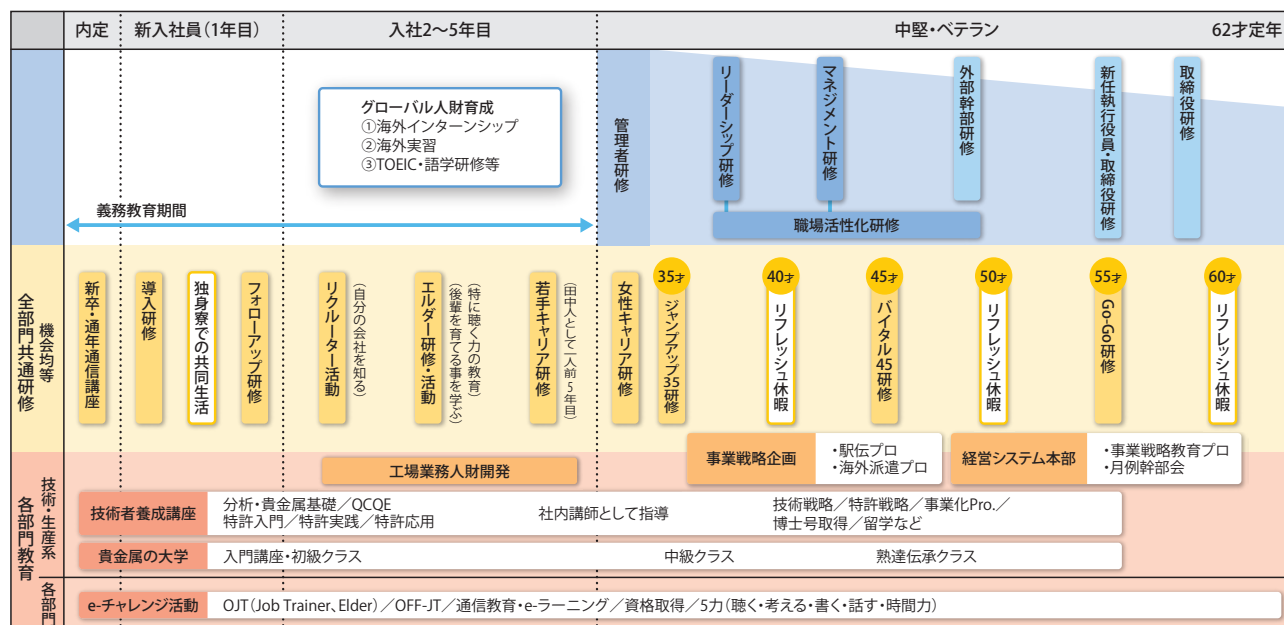
障がい者雇用促進状況

	障がい者雇用率
2009年4月	1.70%
2010年4月	1.50%
2011年4月	1.49%
2012年4月	1.63%

人材育成

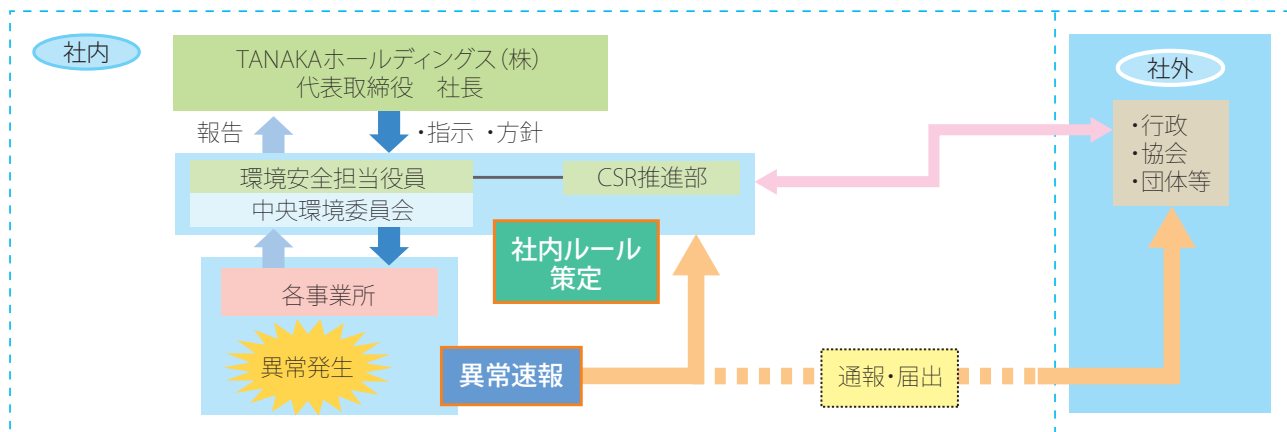
TANAKAグループでは入社時から退職迄の全期間において、社員として必要な知識、キャリア等を定期的に教育、指導する教育体系を作成し、実施しています。

教育体系





TANAKAグループでは、特に大気及び水質については原則として法令基準の1/2を限度とする厳しい社内管理値を設定して、法令を順守するだけでなく、環境負荷をできるだけ抑えた事業活動の実施を目指しています。更に、異常発生時には早期対応・再発防止啓蒙のために社内「速報」による情報伝達を行うと共に、「通報・届出基準」を作成し関係行政当局への連絡体制を確立しています。



ISO14001 認証取得状況

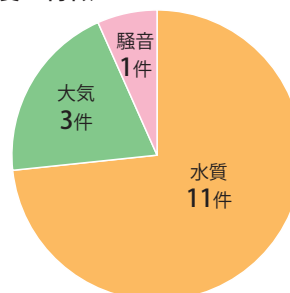
田中貴金属工業株式会社		
湘南工場	2000年	10月
鶴岡工場	2000年	12月
市川工場	2002年	5月
技術開発センター	2002年	5月
平塚工場	2002年	10月
岩手工場	2005年	1月
伊勢原工場	2005年	3月
富岡工場	2005年	3月
田中電子工業株式会社		
田中エレクトロニクス・シンガポール	1999年	12月
田中エレクトロニクス・マレーシア	1999年	6月
日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ株式会社		
	2000年	11月
田中貴金属販売株式会社 田中貴金属インターナショナル株式会社 本社		
	2003年	10月
台湾田中貴金属工業股份有限公司	2010年	5月

環境保全への影響に大きく関与する製造部門及び技術部門、取引先とのネットワーク構築の核となる販売部門においてISO14001を取得しています。

社内管理値オーバー発生件数 (社内管理値は法令基準値の1/2)

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
22件	14件	9件	8件	8件	15件

2011年度の特徴



2011年度は水質に関する異常が多く発生し、社内管理値オーバーが昨年度の倍近くなりました。適時、対策を実施し再発防止に努めています。

対策例

- 浄化槽の運転管理の適正化
- スクラバー維持管理のための設備投資



工場を拠点とした生産及び研究・技術開発やオフィス・店舗を拠点とした販売・管理など、各部門の事業活動に伴う環境負荷をINPUT・OUTPUTデータとして集計しています。TANAKAグループの事業活動は生産活動が大きな割合を占めており、環境負荷のほとんどは生産活動によるものとなっています。

2011年度INPUT・OUTPUTデータ

INPUT

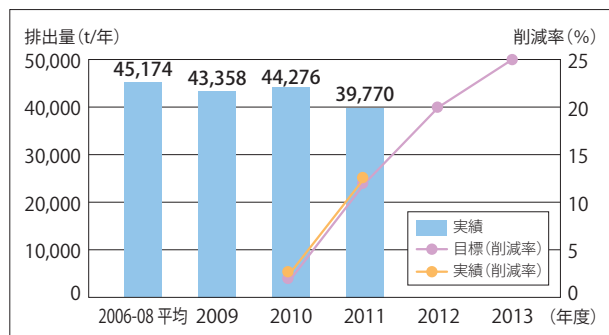
電気	84,462 千 kWh
LPG	92 t
都市ガス	3,444 千 m ³
重油	123.6 kℓ
水	450 千 m ³



OUTPUT

CO ₂ 排出量	39,770 t
NO _x 排出量	13 t
放流水(工程排水)	288 千 m ³
廃棄物排出量	12,498 t
PRTR排出量・移動量(合計)	70 t

年度推移データ

CO₂排出量(t-CO₂/年)

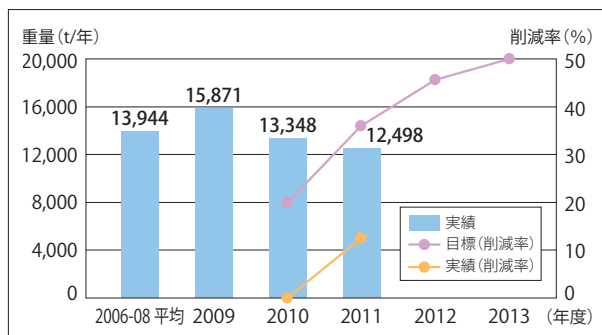
CO₂削減は2013年度までに2006-2008年度平均の25%削減を目標に活動しています。

2011年度目標値:12%削減を掲げ達成しました。

2012年度は計画通りの削減が確保できるように活動を展開中です。

廃棄物排出量

(t/年)



廃棄物削減は2013年度までに2006-2008年度平均の50%削減を目標に活動しています。

2011年度目標値:36%削減を掲げましたが12.5%と未達成となっています。

2012年度は削減不足分を挽回し、2013年度には目標を達成できるように活動を展開中です。

CO₂指標:「環境効率」

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011
環境効率	1.396	1.399	1.428	1.397	1.270	1.505

CO₂排出量の削減効果が大きく寄与して、環境効率の改善につながりました。

環境効率=付加価値/CO₂排出量

付加価値=生産高-(材料費+外注加工費)

廃棄物指標:「埋立処分率とリサイクル率」

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011
埋立処分率	13.8%	9.7%	11.2%	9.9%	5.4%	4.4%
リサイクル率	29.7%	19.9%	15.4%	22.5%	22.6%	22.2%

埋立処分率は改善傾向ですが、リサイクル率は横ばい傾向です。



環境会計の目的と集計条件

目的

環境への取組みを財務データと関連付けることにより、環境経営向上のための基礎データとし、さらにこれを外部公表することにより透明性を高めることを目的としています。

集計範囲

2011年4月～2012年3月における田中貴金属工業(株)内を集計しています。

2011年度の集計結果

2011年度の特徴

2010年度に比べ、環境保全活動及び環境マネジメント活動に関わる費用が増加しましたが、事業環境研究開発費が減少して、トータルとしては減額となりました。

環境省ガイドラインに準拠したコスト

(百万円)

項目		費用額	投資額
事業エリア内コスト	①公害防止コスト	395.3	72.1
	②地球環境保全コスト	0.2	0.0
	③資源循環コスト	185.1	0.0
上・下流コスト		0.0	0.0
管理活動コスト		419.2	0.0
研究開発コスト		1,362.0	71.2
社会活動コスト		0.0	0.0
環境損傷コスト		0.0	0.0
総合計		2,361.8	143.3

集計方法

本報告書では以下を算出し、集計しています。

- (1) 環境保全コスト
- (2) 当社の環境活動の特徴を表した独自の分類によるコスト
- (3) 環境省ガイドラインに準拠したコスト

環境保全コスト

(百万円)

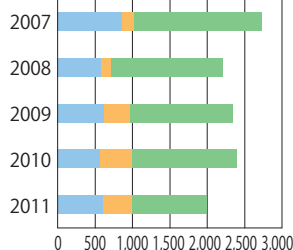
	項目	主な取組み	費用額	投資額
環境保全活動	省資源・省エネルギーに関するコスト	生活排水再利用設備等	0.9	0
	大気汚染防止に関するコスト	大気汚染防止のための排ガス・洗浄塔の増設、測定費用、薬品費等	62.7	0
	排水処理に関するコスト	排水処理設備の改修費、水質検査、薬品費等	357.6	72.1
	廃棄物処理に関するコスト	産業廃棄物処理費	166.7	0
	リサイクルに関するコスト	リサイクル処理費	17.5	0
	その他地球環境保全に関するコスト	排気洗浄塔防音壁設置費、土壌調査費等	4.9	0
環境マネジメント活動		人件費、ISO14001定期審査料・年間登録維持料、環境報告書作成費用等	389.5	0
事業環境研究開発費		・カドミフリー材の研究開発 ・有害排ガスの発生を無くすため、水素と酸素の化学反応を利用した燃料電池自動車等に用いる燃料電池用電極触媒の研究開発 ・有機物や有害物質の悪臭を消臭するための触媒の研究開発 ・自動車排ガス浄化触媒に用いる三元触媒の研究開発	1,362	71.2
環境損失及び補償		罰金・料料などはありません	—	—
総合計			2,361.8	143.3

環境効率と環境保全に関わる費用・投資額推移

環境保全コスト

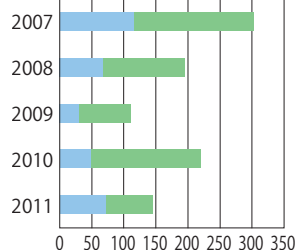
費用

(年度)



投資額

(年度)

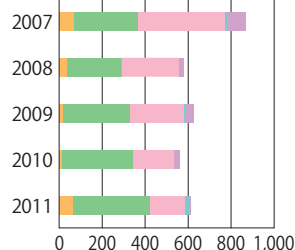


■ 環境保全活動 ■ 環境マネジメント活動 ■ 事業環境研究開発費

環境保全活動

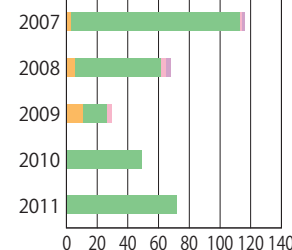
費用

(年度)



投資額

(年度)



■ 省資源 ■ 大気汚染防止 ■ 排水処理 ■ 廃棄物 ■ リサイクル ■ その他



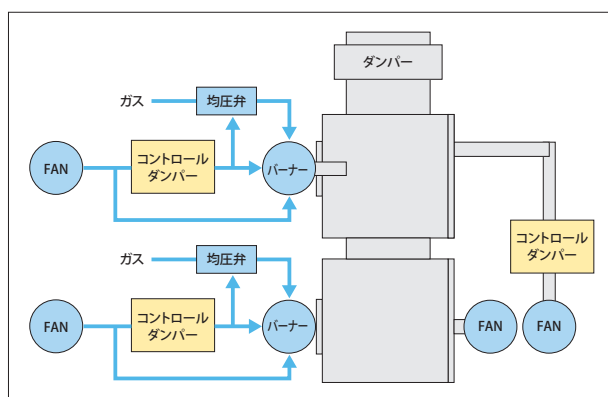
TANAKA グループではCO₂削減、廃棄物削減など、各事業所毎に削減目標を設定し、取組んでいます。

CO₂削減

湘南工場

焼成炉の省エネ化

- 二次燃焼室に供給する燃焼用空気の量を、二次燃焼室の温度と比例させて、無駄な燃焼分を減少
 - バーナー燃焼用空気供給を制御することにより、パイロットバーナー（種火）の無駄な燃焼分を減少
- ➡ CO₂削減効果：393t/年

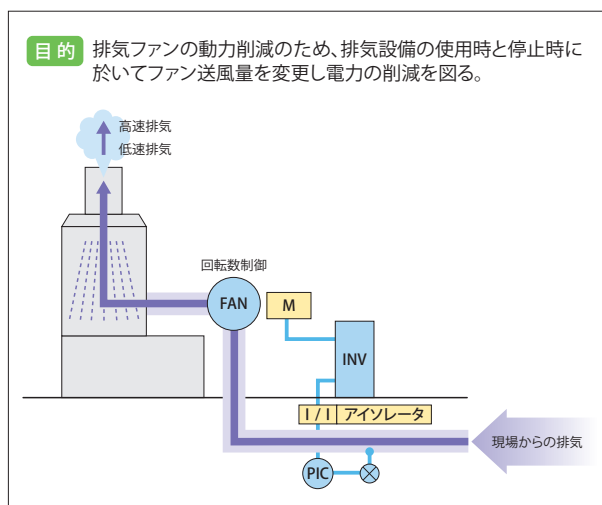


市川工場

排気ファンのインバーター制御化により節電

作業室から発生する排気ガスの状況にあわせて、自動的に排気量を変化する（インバーター制御）方式

➡ CO₂削減効果：11t/年



平塚工場

エアコン室外機224台にヨシズやゴーヤのカーテンを設置して節電

➡ CO₂削減効果：16t/年



エアコン室外機にヨシズ



ゴーヤのカーテン

鶴岡工場

NC穴あけマシンの増圧弁を取外しコンプレッサーの損失を低減

➡ CO₂削減効果：8t/年

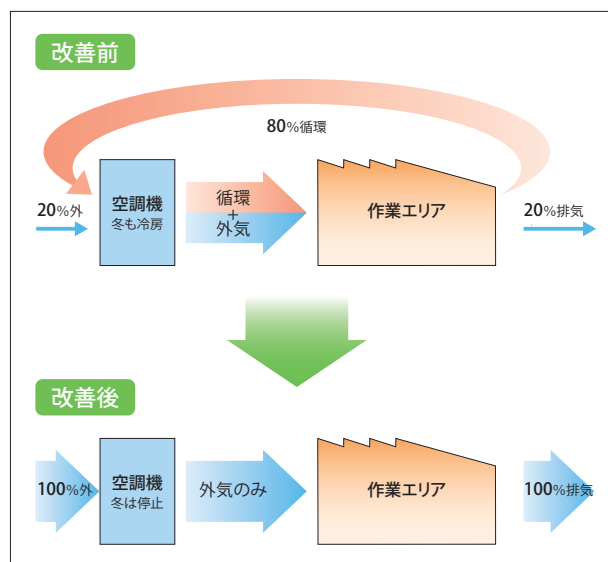


CO₂削減

富岡工場

外気冷房方式により暖房費用の削減
筑波事業所でも実施しています。

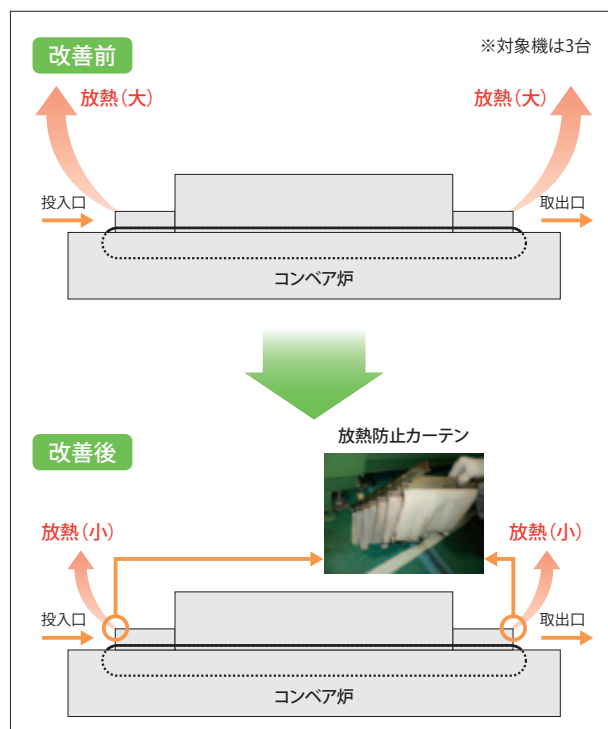
→ CO₂削減効果:270t/年



富岡工場

コンベア炉出入り口に放熱防止カーテンを取り付け電力削減

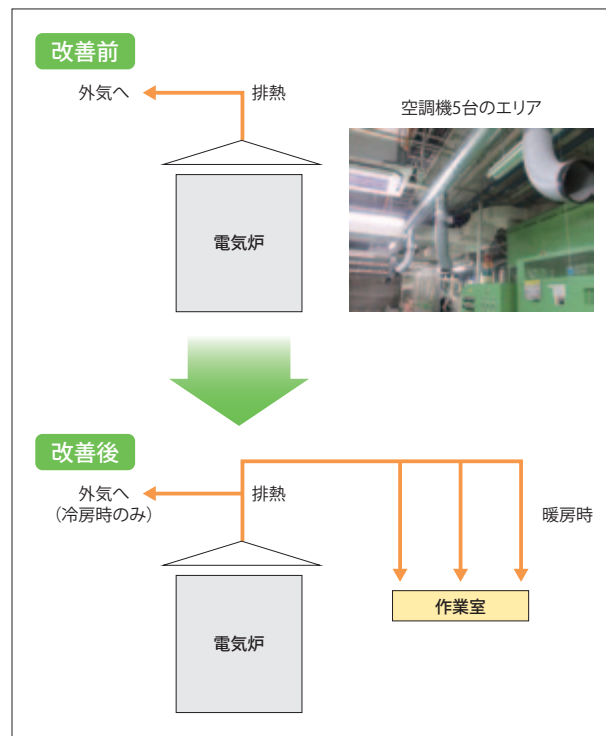
→ CO₂削減効果:2.3t/年



伊勢原工場

電気炉からの排熱利用で暖房電力削減

→ CO₂削減効果:9t/年



廃棄物削減

鶴岡工場

脱水機更新、使用薬剤投入量低減による汚泥発生量の削減

→ 汚泥発生量 22.6t/月→17.1t/月

→ 効果金額 147.4千円/月

- 脱水機更新により汚泥に含まれる水分が減少し、汚泥発生量が削減
- 使用薬剤投入量を低減し汚泥発生量が削減



更新した脱水機 (フィルタープレス式)

公正な事業慣行 コンプライアンス



TANAKAグループでは公正かつ適正な取引を行うことにより社会貢献に努めています。そのため取引先や個人のお客様など、ほかの組織や個人と取引を行う際に、汚職防止、責任ある政治関与、公正な競争、バリューチェーンにおける社会的責任の推進、財産権の尊重などの課題に対して誠実に対応するように心がけております。



公正な事業慣行

反社会的勢力対応

反社会的勢力を社会から排除することは、社会の秩序や安全を確保する上で重要課題と考え、行動憲章／行動規範に取組みを規定し、所轄官庁との連携・情報共有強化を図っています。

安全保障輸出管理体制

TANAKAグループが持っている高度な製品や技術が大量破壊兵器を開発している国やテロ集団に渡って使用され、国際的な脅威になることを未然に防ぐための「安全保障輸出管理体制」を設けています。

契約書管理体制

顧客等と締結した全ての契約書の一括管理を進めています。独自の契約管理システムを使用し、契約更新、検討履歴記録をデータ化して迅速な契約書検索等ができる体制を構築しています。

知的財産権

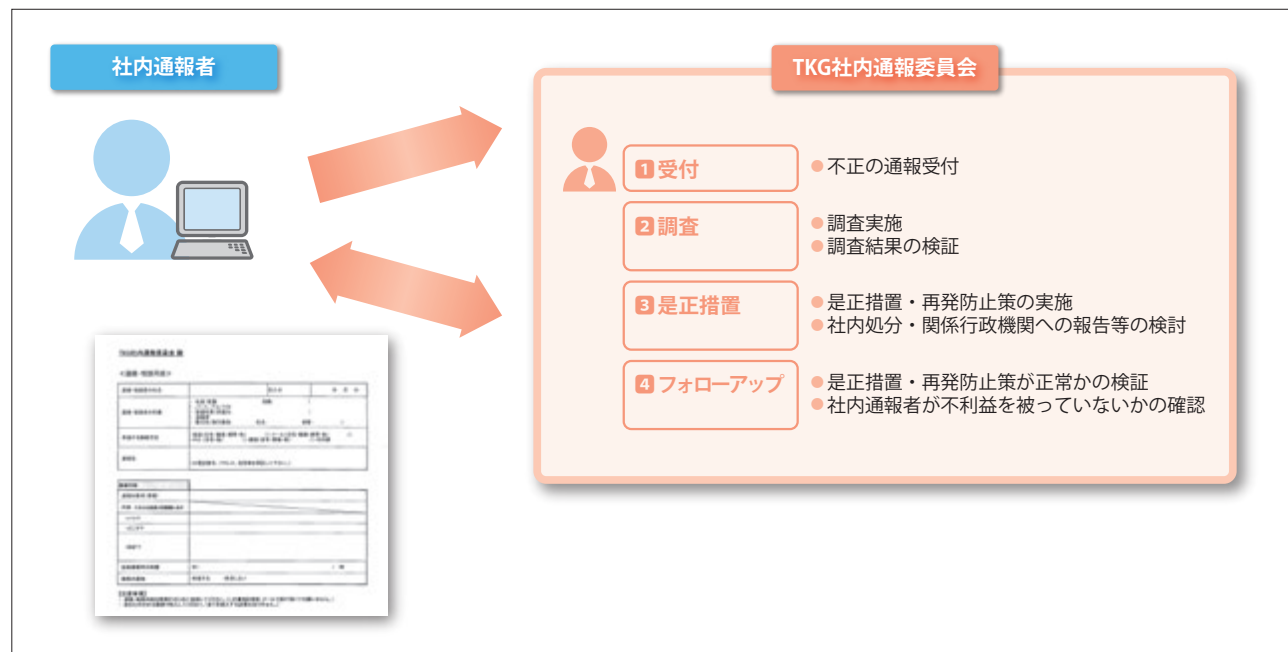
特許権、実用新案権、商標権、意匠権（以下、特許権等）、著作権などの知的財産権を貴重な無形財産と考え、グローバルに事業を展開しているため、日本を含め各国において積極的に権利を確保し、事業活動に活用しています。他社の侵害行為に対しては、各国の法令に則って厳正に対処しています。

公報番号	発明の名称
特許4686639号	生豚肉検出法およびその検出キット
特許4756103号	めっき排水からの貴金属イオン回収方法
特許4771562号	Ag-Au-Pd三元合金系ボンディングワイヤ
特許4831710号	無電解金めっき液及び無電解金めっき方法
特許4880064号	固体高分子形燃料電池用触媒及びその製造方法

2011年度 特許件数 48件

社内通報制度

コンプライアンスの浸透に向けた取組みの一つとして、社内の通報を適切に行うための「社内通報制度」を設けています。





2011年に発生した東日本大震災やタイの大洪水以降、企業における非常事態や災害に対するリスクマネジメントの重要性は増えています。TANAKAグループは今後も部品・部材の安定的な供給や、投資用地金や貴金属積立商品の継続的な取引の提供など、BCP対策をグループ全体で包括的に強化してまいります。

大阪本社の新設

TANAKAホールディングス株式会社は、関東と関西での同時災害は無いという想定から、TANAKAグループの事業継続に不可欠な本社機能を有する大阪本社を設置し、2012年4月より全面稼働しました。お客様からの受注、製造工程への手配、工場からお客様への出荷といった主幹事業の機能が大阪でも稼働することにより、大規模な災害時でも、東京と大阪のいずれかでTANAKAグループ全体の事業を継続し、お客様への部品・部材の安定的な供給や投資用地金や貴金属積立商品の継続的な取引の提供といった社会的責任を果たします。大阪本社では、東京本社と連動したグループ全体のシステム環境を設置し管理業務などを遂行するシステム機能、国内外における工業製品の受注から出荷までの日次業務や管理業務を担う顧客対応機能、輸出入における実務や管理業務を担う貿易機能、地金の調達と値決め実施や売買入力といった業務を担うトレーディング機能、勤怠管理や給与計算を担う人事給与機能、出荷業務や物流業者との調整を担う物流機能を備え、東京本社と同様の業務推進を可能にします。大阪本社の人員は、TANAKAホールディングス株式会社、田中貴金属工業株式会社、田中貴金属販売株式会社、田中貴金属ビジネスサービス株式会社の各部署が組織され、同一部署内で東京本社と交替で常駐し、常に本社としての機能を保有させ、災害におけるリスクを分散します。



大阪本社（堂島アバンザビル内）

耐震対策

東日本大震災以降、従来より施工されていた設備等への耐震対策を全面的に再度見直し、地震の際の被害を最小限に抑え、復旧を最短時間で行うことを新たに考慮し、以下の耐震対策を実施しました。各生産現場では、機械・設備・棚の転倒防止の見直しと施工及び棚上の保管物落下防止対策を実施しました。また、田中貴金属ジュエリーの店頭等ではキャスター付きショーケース等の移動・転倒防止対策として、キャスターへのストッパー設置及び固定を行いました。

銅製ボンディングワイヤを国内外4拠点で生産開始

2011年7月に、低コストにより金製から銅製に代替が進むボンディングワイヤの製造を、日本・シンガポール・中国（杭州）の3拠点での生産を開始しました。さらに、2012年2月には台湾を加えて、合計4拠点での生産を行っています。現地顧客に根差したスピーディーな製品の供給体制を確立でき、自然災害や社会インフラの障害といった非常事態に対するサプライチェーンのリスク分散が可能になりました。

袖ヶ浦工場の稼働開始

2012年1月より、使用済み自動車排ガス浄化用触媒に含まれる白金族金属（白金、パラジウム、ロジウム）の回収・精製を行う袖ヶ浦工場の稼働を開始しました。これまで、白金族金属の回収・精製は国内の1拠点のみにて稼働していましたが、有事の際に自動車関連部品のサプライチェーンが不安定となることに備え、自動車触媒メーカーに対する安定的な材料供給の実現を図ります。また、産出量が少ない希少な白金族金属を再資源化することで資源循環社会の形成を目的としています。

電力危機への対応

東日本大震災の影響による電力危機に対応するため、2011年夏に各生産拠点に計30台（レンタル含む）の自家発電機を導入しました。さらに様々な節電対策により、節電目標を達成し、生産を止めることなく、お客様に製品を安定供給することができました。

放射能汚染防止の取組み

福島第一原子力発電所の事故による放射能問題に対応するために、各生産拠点に放射線測定器を導入し、放射線測定の実施基準を策定し、放射能に汚染された材料を工場に入れない、出さない体制を構築し運用しました。

製品供給安定化の取組み

大規模災害に備え、各種製品の材料や完成品を一定量保管し、さらに生産に欠かすことのできない副資材の調達先を東日本と西日本に確保することにより、お客様への製品の納入を停滞させない体制を構築し運用しています。



TANAKAグループでは長年培ってきた貴金属に関するノウハウ、技術を核とし、様々な製品を開発しています。これらの製品は自動車、家電製品等にとどまらず、医療、エネルギー、環境等あらゆる分野の商品に使われており、常にお客様の身近で、その生活を支えています。

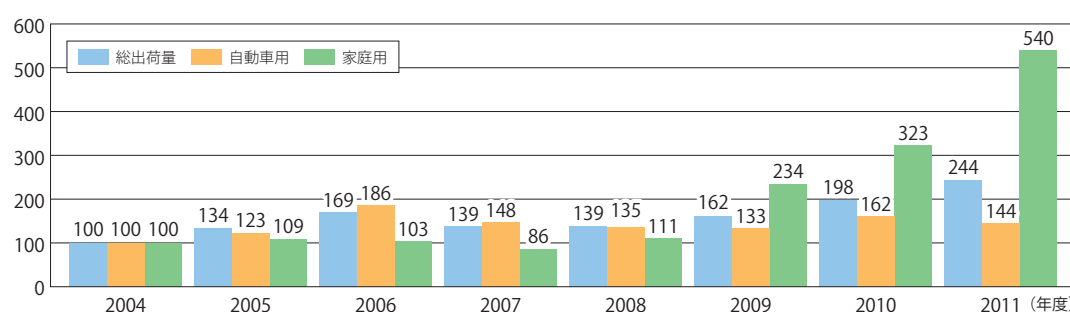
またTANAKAグループの技術開発力は製品を直接購入されるお客様から高い信頼を受け、多くの名誉ある賞を受けています。今後もさらに貴金属に関する探求を続け、お客様の生活に貢献できる技術開発を行ってゆきます。

普及が進む燃料電池にはTANAKAグループの技術が使われています。

TANAKAグループの燃料電池用触媒は、2004年度の出荷量(指数)を100とすると、2011年度の総出荷量は過去最高となる244で、2010年度(198)に比べて約23.2%増と大幅に上回りました。特に家庭用燃料電池「エネファーム」に使われる触媒の出荷量が、2010年度(323)に比べて約67.2%増となる540を記録したことで、総出荷量が大幅に上昇しました。昨今、自家発電や節電に対する社会の意識が高まっている中、小型で安価な新型の「エネファーム」が発表されるなど、2011年度中に各メーカーが活発な販売活動を行ったことなどにより、市場への普及が加速し、触媒需要量の増加につながったと考えられます。

また、燃料電池自動車(FCV)に使われる触媒の出荷量は、2011年度に144を記録。自動車用の出荷量は、2006年度に186とピークを迎え、その後は一旦、需要が落ち着き、150前後の出荷量を毎年度、記録しております。FCVの普及開始時期となる2015年を目標に、各自動車メーカーは、引続き実用化に向けた研究開発を進めており、触媒需要は安定的に推移しております。

燃料電池用触媒用途別出荷量の推移



※ 2004年度(2004年4月～2005年3月)の年間出荷量を100とした指数

※ 総出荷量にはモバイル用なども含む

TANAKAグループの製品はお客様から多くの支持を受けています。

バラード社から最優秀サプライヤー賞を4年連続受賞

田中貴金属工業株式会社は燃料電池で世界最大手、カナダのバラード・パワー・システムズ(本社:ブリティッシュ・コロンビア州、社長:ジョン・シェリダン)様から「2010年最優良サプライヤー賞」を受賞しました。

今回の受賞により、田中貴金属工業は同賞を4回連続で受賞したことになります。世界で約100社あるバラード社のサプライヤーの中で唯一、2回以上の受賞実績を誇っています。



TIグループ様からサプライヤーエクセレントアワードを受賞

田中電子工業株式会社はTIグループ様から昨年度のサプライヤーエクセレントアワードを受賞しました。この賞は12,000社あるTIグループ中で15社しか表彰されない大変名誉な賞です。田中電子工業の社員はこの賞を励みにさらに社会貢献に繋がる新しい製品の開発を誓いました。



TANAKAグループではコミュニティへの参画及びコミュニティの発展のため、地域コミュニケーションから文化芸術・災害被災地支援・地球環境保護に至るまで、「ゆとり有る豊かな社会の実現への貢献」に近づけるよう、グループ会社各社の強みを活かした様々な活動を通じて社会貢献に取り組んでいます。

人材育成・文化芸術の発展

アジア太平洋国際会議にて社長の岡本が基調講演

アジア太平洋地域の学生による知的交流、及び各国での海外インターンシップの発展を通じた次世代のアジユースリーダーの育成を目的としたアジア太平洋国際会議が開催され、アジア太平洋地域約110の国や地域から来日した学生達200名以上が出席しました。

この会議ではTANAKAホールディングス社長の岡本が基調講演を行い、参加者も熱心に耳を傾けていました。



貴金属に関する研究助成金制度

多様な有用性を持つ貴金属の新たな可能性を開拓する機会を広げることを目的とし、貴金属が貢献できる新しい技術や賞品の実用化に向けて研究・開発を行った大学や研究機関に対し貴金属に関する研究助成金制度を設けています。



写真中央：大阪大学 開発助教、右から2人目：山形大学 栗原教授

本年度の受賞者は以下の通りです。

プラチナ賞:1件

山形大学 栗原正人教授

テーマ名

プリンテッドエレクトロニクス時代に向けた第二世代の銀ナノ微粒
子とその革新的製造技術

ゴールド賞:1件

大阪大学 開発邦宏助教

テーマ名

ヘアピン型ペプチド核酸を用いた
タミフル耐性ウイルスの迅速診断
キットの開発

その他シルバー賞には8件、MMS賞には19件の方々が受賞されました。

スポーツ振興支援

パラリンピック協賛

2012年3月1日から日本障害者スポーツ協会による、2012年・ロンドンパラリンピック日本選手団を応援する活動に協賛しています。



市民マラソン大会協賛

昨年度に引き続き、全国各地で開催された「市民マラソン大会」へ特製ケースに入れた金貨を「金メダル」として提供しました。





地域環境の保護・保全

地域の清掃活動に参加

TANAKA グループの各社、各事業所は、今年も地域の清掃活動に参加し、他企業との交流などを通して、地域の環境活動推進を行いました。

EEJA

昨年に引き続き近隣の小学生と一緒にお花畑周辺の清掃とチューリップ球根5,000株の植栽を行いました。



TKK 富岡工場

近隣とのコミュニケーションの一環としての清掃活動を実施。工場周辺の歩道・車道等のごみを拾いました。



TKH/I

HICOM123の活動の一環として、昨年に引き続き、今年もTANAKAグループ「創業の地」茅場町周辺の清掃を行いました。



その他鶴岡、市川、筑波事業所等TANAKAグループの多くの企業が地域清掃に参加しております。

TKK 貴金属部

昨年に引き続き、本社を中心に関東圏内の事業所社員が参加し、富士山清掃を行いました。残念ながら雨の中での作業となってしまいましたが、短い時間の中で630Kgのゴミを回収することができました。



植林事業(みどりの基金)支援や森の町内会(間伐に寄与した紙の利用)サポーター継続

リサイクルキャンペーンの収益の一部を各都道府県の自然を守る活動に寄付し、感謝状を頂きました。

またTANAKAグループは間伐サポート企業としてCSR報告書、各種レポートの用紙の一部に森の町内会を利用しています。



コミュニティへの参画 社会貢献

寄付・募金活動

TKJ各支店での寄付活動

田中貴金属ジュエリーは各支店が所在する地域の様々な環境保全活動に対して寄付を行っています。

TKJ 仙台店

「宮城みどりの基金」に寄付

TKJ 名古屋店

「愛知県地球温暖化防止活動推進」に寄付

TKJ 銀座本店

「東京都花粉の少ない森作り運動」に寄付

TKJ 福岡天神店

「西日本エコ基金」に寄付

TKJ 心斎橋店

「大阪みどりの基金」に寄付



宮城みどりの基金

TKH/IのHICOM123の活動

田中貴金属販売及び田中貴金属インターナショナルでは社内コミュニケーション活動HICOM123の中で様々な募金活動を行っています。

外国コインの募金

社員に対し海外の出張や旅行などで余ってしまった各国コインの募集を行い、そのお金を発展途上国の子供達の生命や健康、権利を守る日本ユニセフ協会へ寄付しました。

フリーマーケットの開催

新しい試みとして本社ビルにおいてフリーマーケットを行い、その収益金をあしなが育英会に寄付しました。



その他のTANAKAグループの活動

TANAKAグループの各社、各事業所では様々な寄付・募金活動を行っています。

電動リフト付車両を寄付

創立50周年を迎えた田中電子工業(株)佐賀工場は地域貢献のため、吉野ヶ里町社会福祉協議会に車椅子のまま乗れる電動リフト付き車両(10人乗り)を送りました。



献血の実施

TANAKAグループ各社、各事業所では定期的に献血車両を招き、社員に呼びかけ集団献血を行っています。

社会貢献活動への寄付

公益信託日本経団連自然保護基金への寄付を行っています。また貴金属を扱う業界人・科学者・学生へ田中淳一郎功労賞の授与を行っています。

ペットボトルキャップ収集の継続

エコキャップ推進委員会の「ペットボトルのキャップで世界の子供にワクチンを届けよう」の活動に賛同し、焼却処分されるキャップをリサイクルにまわすことで、ワクチンの購入、CO₂の削減に寄与しています。

2011年度は165,350個(ポリオワクチン207人分)のキャップを集めました。





TANAKAグループでは、被災地への復興を願う「社員の声」、そして、まだまだ支援の力を待っている「被災地からの声」、そしてなにより、「ボランティア活動をしたい」という社員の声をひとつにすべく、2011年度、2度に渡り、「岩手県」と「宮城県」に向けた『東北復興支援ボランティア活動』を実施いたしました。

2011年度 夏季東北復興支援ボランティア活動

岩手県 陸前高田市

実施日:2011年7月25日(月)～7月27日(水) 3日間

参加者:21名

陸前高田市内で瓦礫の撤去作業を行いました。また医師会と病院に車椅子を寄贈しました。



2011年度 冬季東北復興支援ボランティア活動

岩手県 陸前高田市

実施日:2012年2月28日(火)～3月1日(木) 3日間

参加者:29名

陸前高田市内で水路の泥出しと瓦礫の撤去作業をおこないました。あいにくの天気で、雪の中の作業でしたが、参加者全員一生懸命に作業しました。また陸前高田市ボランティアセンターに作業用の機材を寄贈しました。



宮城県 石巻市

実施日:2011年7月27日(水)～7月29日(金) 3日間

参加者:27名

石巻市北上保健医療センターのひまわりの畑の除草作業を行いました。暑い中での作業でしたが、ひまわりが綺麗に咲くことを願い作業しました。また、医師会に車椅子を寄贈しました。



宮城県 七ヶ浜町

実施日:2012年2月29日(水)～3月2日(金) 3日間

参加者:20名

宮城県七ヶ浜町で、石の除去や整地作業を行いました。また七ヶ浜町ボランティアセンターに作業用の機材を寄贈しました。





「安全」「衛生」「環境」の将来を見据え、TANAKAグループでの安全・衛生・環境組織及び会議体系を見直すこととしました。

中央組織の見直し

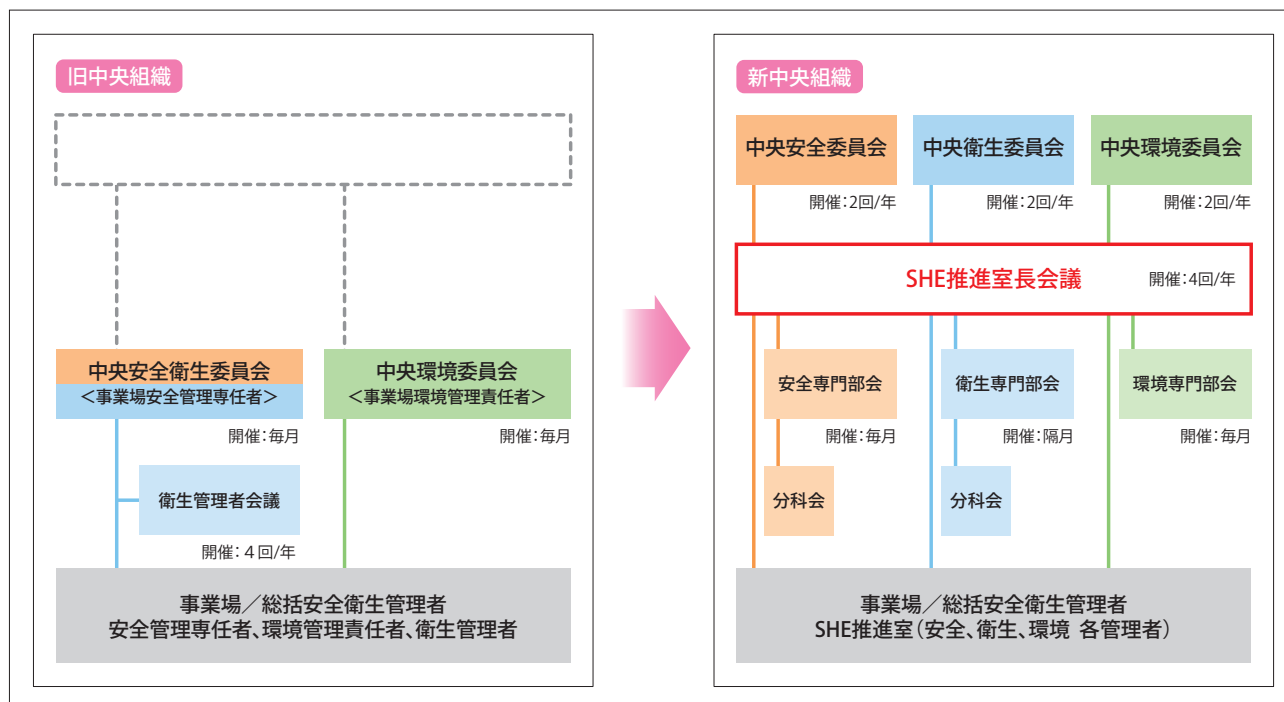
従来の管理者主体とした中央委員会を、TANAKAグループの中央組織として各事業場の総括安全衛生管理者で構成する委員会とし、さらに安全、衛生、環境の3つに分離しました。

SHE推進室の設置

安全、衛生、環境に関する活動が個人の能力・知識・経験に委ねられるのではなく、組織として活動できるよう、安全(Safety)、衛生(Health)、環境(Environment)を総括して管理する組織として、それぞれの頭文字を取りSHE推進室と命名、各事業場へ設置しました。

新組織に対応した会議体系

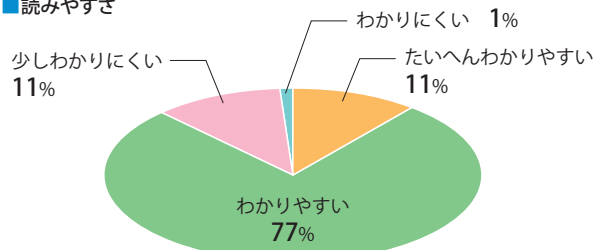
新組織でのリソース(人財・知恵)の有効活用を図るため、TANAKAグループ全体での会議体系を変更しました。中央委員会の下にSHE推進室長会議、さらに実務部隊である各管理者の活動体としての各専門部会及び重要課題をテーマとした分科会を設定しました。



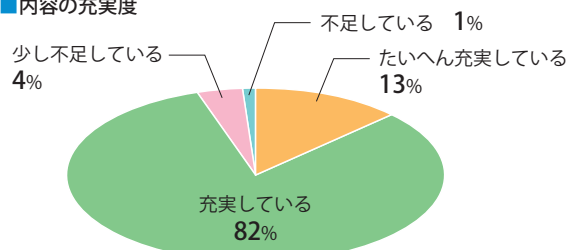
CSR 報告書 2011 年度版アンケート結果

アンケート回答数: 1,408 名

■読みやすさ



■内容の充実度



第三者所感

「TANAKA グループCSR報告書2012」 第三者所感



横浜国立大学特任教授
教育人間科学部

工学博士 堀 雅宏 (写真左側)

【略歴】1968年横浜国立大学工学部電気化学科卒、工学部を経て同大学教育人間科学部教授として、大学院環境情報研究院環境と情報部門を兼担。2008年定年後特任教授。
環境関係のJISや検定会等の委員や主査を歴任。専門は環境計測学・環境工学。最近の著書:「環境化学計測学」、「環境教育」(共に共立出版)など。

TANAKAホールディングスになって3年目のCSR報告書を読ませていただきましたので、今年も所感を述べさせていただきます。

全体について

報告書の構成や内容にいくつか斬新な点が感じられた。お聞きするとISO26000のCSR規格に則って編集された由。従来から図表や写真を効果的に多用して来られたが、今年は全体としても、個々の図表もすっきりと理解しやすくなったという印象を持った。緑を基調とした表紙で、今年の稀少生物オオルリシジミはわたしにも見覚えのある蝶であるが、裏表紙で蝶自身につぶやかせていたところが面白い。

昨年(2011年)の「東日本大震災」は我々の国土と社会にも多大なダメージを与えたが、その影響は物質的のみならず、価値観や文明観、人間観までも及んでいる。「TANAKA」がここから何を学んだかはこの報告書では直接触れていないが、3か年計画の見直しや事業継続計画(BCP)の意識化に反映されていることが伺える。

ここで企業活動、CSRと報告書の関係や意味に触れてみたい。企業活動における社会的責任の項目(本文では主題)を明確化したのがISOの規格であることは言うまでもないが、これは目的でなく、方針を決めて事業活動して行く上での観点であろう。なお、報告書の発行そのものは7つの主題のひとつ「公正な事業慣行」に入ると思われる。BCP(事業継続計画)への取組みは時期を得て重要であるが、企業理念があり、企業理念を実現するための「個人の観点」の行動指針がある中で、会社全体としての運営理念のようなものであると思われる。地球環境問題対応では「持続可能な開発、持続可能な社会」が関心を持つ人々の合言葉であるが、それにも相当する対応だと思われてならない。自然災害だけでなく安全衛生を含むリスクマネジメントはBCPそのものであるが、何のためのBCPかを考えると自社のことだけを考えるのでは意味が少なく、会社全体で力を入れて来られた環境対応を含むBCPがCSRに繋がるように思える。

次にページに沿って所感を述べてさせていただくことにする。

●トップメッセージ

私は長年「田中貴金属工業」を安全環境を中心に見させていただいてきた。外部的には貴金属の工業的地位の向上と信頼、社内的にはノウハウを含む種々の蓄積があったこともあろうが、近年、会社全体のレベルが何となく上がってきたように感じてきた。このような目で改めて「企業理念」と「行動指針」をみると納得がゆくものがある。

「トップメッセージ」は2ページにわたり、全社的観点からの意気込みのほどが感じられる。

●TANAKAグループの事業所と事業内容

世界地図を使ったグループの事業所と事業内容の紹介はワールドワイドをよく表している。

●CSRマネジメント

CSRマネジメントによる組織統治はまさにCSRそのものである。内部統制システムと行動憲章や規範とその周知は立派だと思うが、継続的ケアが大切だと思う。

●安全衛生への取組み

TANAKAは会社全体で従来からこのテーマに熱心に取組んでこられたが、それを改めて方針と目標として成文化された。安全文化の確立を目指す目標を掲げ、安全意識のステージ(p8)において会社の現状は未だ依存型で、独立型を目指す段階であると認識しておられる。ここでは前年度比半減の数値目標が気になった。日常行動は過去の事故に学び、ヒヤリハットを相互啓発的に取り入

れられる雰囲気づくりが肝要で、数値目標は結果として達成されるものであろう。交通安全も力を入れておられることが伺えるが、公私を分けない取組みを期待したい。

●雇用・人材育成

社員を増やすことが最大の社会貢献であると筆者は思っているが、昨年から130人ほど増え、現在では派遣請負もほとんどないとのこと。立派であると思う。

近年、即戦力が言われる中、TANAKAの教育体系は確立されているようであるが、受ける側が義務感でなく自分の向上心でこの体系を使うことが望まれる。

●環境コンプライアンス

法令の1/2を社内基準にしておられるところがTANAKAらしい。廃棄物排出量削減の達成率が比較的低いが、廃液の塩類の比重が大きい由、よくいわれる廃棄物対策の4Rはここでも有効で、すでに実行されていることも多いと思われるが、特に工程など根本的な見直しも期待したい。

●環境会計

多くの企業が準拠している環境省ガイドライン自体にも課題が多いので不完全なのはやむを得ないが、コストだけでなく環境保全効果や経済的な効果にも触れるべきである。これは日常の会計システム運用の中で考えなければできないことである。なお、金額では表記できないが、排出基準値の1/2をクリアしたことも、廃棄物が減ったことも効果である。

●環境負荷低減への取組み

環境負荷低減への取組みのほとんどが省エネによるCO₂削減であるが、設備投資と日常の省エネ活動の積み重ね、両方からのアプローチが良い。

●コンプライアンス

社内通報制度がハラスメント対策で私の職場(大学)にもあるが、いつも思うことは制度はツールで、目的は組織の風通しを良くし、重い通報がなくなるような組織になることである。

●BCPの取組み

これは前述したように決して「公正な事業慣行」のような一観点に収まるようなものではない。BCPも関係者以外は分からない表現である。東京と同時に震災が起こる可能性は極めて低いということで立ち上げた大阪本社新設はさすが、TANAKAである。ビルの耐震性の評価がどの程度行われたなどは関心のあるところではあるが。

●お客様への対応

製品の種類(例えば工業原料、中間製品、装飾品)あるいは環境負荷では環境浄化・省エネなどいろんな立場のお客様がおられるので、それぞれについてみて行くのが良いと思われる。

●社会貢献

これは社会貢献ではあるが、むしろ世界企業、地域企業としての義務のように思われる。東北復興支援をされているが、これからも長く継続していただきたいものである。

●安全・衛生・環境管理活動の組織

見直された組織は安全・衛生・環境の一体推進とトップ参画が特徴のようである。生産現場では3つを縦割りにするのではなく一体で進めるべきであるというのは筆者の持論であるので、SHE推進室長会議に期待したい。

最後に、報告書のアンケート結果が紹介されていたが、どのような方がこれをお読みになっているか知りたかった。